

# 令和3年度 第1回大和市下水道運営審議会会議録（抜粋）

【開催日時】 令和3年7月15日（木） 午後2時30分～午後3時45分

【開催場所】 市役所5階 全員協議会室

【出席状況】 委員11名（欠席0名）：

石田裕委員、扇原博委員、高橋一雄委員、関水秀樹委員、  
小野佐枝子委員、塩沢雍子委員、山本雄一委員、小倉剛委員、  
大谷勝也委員、藤島英市委員、吉田美佳委員

市側6名：

環境施設農政部長、下水道経営課長、下水道・河川施設課長  
ほか担当職員3名

【公開・非公開の状況】  公開  非公開  一部非公開

【傍聴人】 0名

【審議又は検討の経過及び結果】

●会議次第：1 挨拶

2 委員紹介等

3 議題

(1) 会長の選出について

⇒委員の互選により、石田委員が会長に選任された。

(2) 下水道事業のあらましについて

⇒大和市の下水道により、概要説明を行った。

(3) 下水道ポスター展の審査員について

⇒委員の合議により、石田会長と山本委員に決定した。

●主な質疑内容の要約：

3 議題

(2) 下水道事業のあらましについて

(委員)

①質疑：審議会で審議する議題はどのようなものがあるのか。

(事務局)

①答弁：当審議会の目的は、市からの諮問に対する答申を出すことです。  
諮問の内容として考えられるのは、下水道使用料の改定などです。

(委員)

②質疑：下水道使用料の改定は、どのような流れで諮問を受けるのか。

(事務局)

②答弁：下水道事業の経営管理を行っている部署で改定の必要性について検討  
を行い、改定（案）について庁内の調整を行ったうえで、決定します。  
決定した改定内容について、審議会へ諮問します。

(委員)

③質疑：下水道使用料は、どのくらいの間隔で改定が行われているのか。

(事務局)

③答弁：直近では、平成30年4月に改定を行っており、改定についての検討は、3年から5年の間隔で行っている。今年度は、公営企業会計へ移行して初めての決算となる令和2年度決算の実績を見ながら改定の必要性を検討している状況です。

(委員)

④質疑：一般会計から下水道事業会計への負担割合は、どれくらいとされているのか。

(事務局)

④答弁：下水道事業は独立採算制が求められており、汚水については私費（下水道使用料）で賄い、雨水については公費（税金）で賄うという原則がある。

しかし、現状、汚水の経費回収率は令和2年度決算の速報値で約87%であり、不足分の約13%を一般会計から補てんしています。

(委員)

⑤質疑：約13%が一般会計から補てんされているとのことであるが、金額としてはどのくらいか。

(事務局)

⑤答弁：令和2年度決算では、約3億円の見込みです。

(委員)

⑥質疑：大和市に布設されている下水道管の総延長はどのくらいか。

(事務局)

⑥答弁：約700kmです。

(委員)

⑦質疑：合流区域とはどのようなものか。

また、将来計画区域とはどのようなものか。

(事務局)

⑦答弁：合流区域とは、汚水と雨水を一つの管で流している区域です。

将来計画区域とは、市街化調整区域のことです。

(委員)

⑧質疑：合流区域を分流に変更する予定は無いのか。

(事務局)

⑧答弁：分流には相当な費用が掛かるため、合流改善を行い、平成26年に完了した。

(委員)

⑨質疑：下水道事業を効率良く運営していくために、新しい技術の導入の検討はしているのか。

(事務局)

⑨答弁：包括的民間委託によって市の職員数を削減したり、電気使用量を削減するセンサーを設置するなど、経費削減に努めている。

(委員)

⑩質疑：汚泥焼却施設の老朽化が進んでいるが、改築更新の予定はあるのか。

(事務局)

⑩答弁：汚泥焼却施設は、補修を行いながら使用している。  
各施設については、計画的に改築更新を行う予定である。

(委員)

⑪質疑：SDGs やカーボンニュートラルなどの考え方から、CO<sub>2</sub>の削減についても考えていかなければならないと思う。

(事務局)

⑪答弁：施設の改築更新に合わせて省エネ化を進めている。  
CO<sub>2</sub>削減は、汚泥処理に係る広域化や共同化を県が主体となり、市町村が参画した協議などが行われています。

(3) 下水道ポスター展の審査員について

(委員)

⑫質疑：今年度は、どのくらいの応募があるのか。  
また、前回の結果を見ると偏った学校からの応募が多いように感じるが、選考方法はどのようになっているのか。

(事務局)

⑫答弁：今年度は、14校1,307点の応募である。  
選考方法は、一次審査として各学校で10～15%の作品を選出し、二次審査、最終審査を名前や学校名を伏せた状態で行っている。参加校に偏りがあるのではなく、入選作品の学校が、たまたま偏ったものである。

(委員)

⑬質疑：下水道ポスター展と下水道出前授業の小学4年生を対象としているが、その理由は。

(事務局)

⑬答弁：小学4年生のカリキュラムに環境などをテーマにした授業があるので、それに合わせて実施をしている。

(委員)

⑭質疑：出前授業は市内全ての小学校で実施をしているのか。

(事務局)

⑭答弁：今年度については、全20校中18校で市の職員による授業を実施し、残りの2校は、教材を提供し各学校の教諭が授業を実施した。

(委員)

⑮質疑：下水道に興味を示してもらうには、中学生や高校生などの世代に向けたものも有効だと考えるが、そのような取り組みは行っているのか。

(事務局)

⑮答弁：現在、出前授業は小学4年生だけである。

その他には、一般の方を対象に大和駅周辺で開催される産業フェアに出展し、下水道のクイズなどを行い下水道についての理解を深めてもらう活動も行っている。